



Wyse Thin OS 7.0 Build 113 Japanese

対象製品: S10, V10L, V10L Dual DVI, V10LE

S10 用ファームウェア: RCA_wnos.jp

C10LE 用ファームウェア: C10_wnos.jp

V10L/V10L Dual DVI/V10LE 用ファームウェア: VL10_wnos.jp

R10 用ファームウェア: R10_wnos.jp ^注

リリース: メジャー/マイナーバージョンリリース

注: R10 の日本国内リリースは、2011 年 2 月以降を予定しています。

S10 利用時の注意事項:

S10 シンクライアント版では、ファームウェアのサイズ制限により、ネットブート方式によるファームウェア運用が必要となります。Wyse ThinOS バージョン 7 以降の S10 利用においては、システム環境に管理用 FTP サーバー(設定 INI ファイルを配置するサーバー)の常備設置が必要となります。

ReadMe の履歴:

Version	日付	変更内容
1.01	2011 年 2 月	初版

シンクライアントシステム利用/導入にあたる注意事項

シンクライアントシステムは、様々なサードベンダーコンポーネントとの組み合わせで実現されます。アプリケーション、ソフトウェア、サーバー、ネットワーク、周辺機器、各種設定の組み合わせにより実現されます。このため、システム導入前に必ず利用/導入するのと同じ環境/組み合わせ(ソフトウェア、ハードウェア、各種設定、ネットワーク環境)での十分な検証を行い、導入に必要な全ての機能/パフォーマンス要件を満たしているかを確認する必要があります。

本 ReadMe では、Wyse ThinOS に対応/テスト済みの各種サードベンダー製品情報を掲載しております。これは、Wyse 社での基本的なテストを実施したことを示しており、各製品の全ての機能、その他製品や環境との組み合わせによる動作保証が行われるものではありません。

特定システム環境(ハードウェア、ソフトウェア、各種設定、ネットワーク環境等)下で Wyse 製品に問題が発生する場合、Wyse 社では、ハードウェア/ソフトウェアの観点から調査を実施させていただきます。ただし、シンクライアントシステムの構造上、もしくはサードベンダー製品/環境との関連性により、対応ができない場合があります。この様な場合、Wyse 社製品内でのワークアラウンド(回避策)やシステム設定変更などのご対応をいただく場合がございます。システム導入前の各種製品/環境とのインテグレーション試験では、十分な検証が必要となります。

概要(目次)

- Version 7.0 Build 113 における新機能
- Version 7.0 Build 113 における修正内容
- 対応システム環境
- ファームウェア(ビルド)の詳細
- 周辺機器とその他ハードウェア対応
- 既知問題/制限事項
- Appendix A: Wyse ThinOS 機能の補足説明
- Appendix B: S10 におけるネットブートの説明

Version 7.0 Build 113 における新機能:

新機能

本リリースにおける追加機能を下記に示します。

1. WTOS ローカル機能強化

WTOS 7.0 では、管理機能、ローカル機能など、シンクライアントシステム管理とユーザー操作性を向上させる機能が追加されました。下記にそれぞれの機能を記します。

■ ネットブート (S10/C10LE)

S10/C10LE シンクライアントにおいて、FTP サーバー上から直接に Wyse ThinOS ファームウェアを起動することが可能となりました。これにより、ローカルにファームウェア自体をインストール作業も必要なくなります。

注意: S10 シンクライアントにおいては、ネットブートによる起動のみがサポートされます。ローカル Flash/ROM にファームウェアをインストールすることはできません。

■ インスタント起動 (C10LE)

端末のシャットダウン後の起動や再起動を実行した際の起動を更に高速に実行します。一旦起動した C10LE は、端末シャットダウン時、待機メモリーに情報を格納します。このため、次回起動時には BIOS 読み込みなどの処理をする必要なく、さらに高速(約 4-5 秒)に端末起動を完了します。

■ ZERO ラウンチパッド ユーザーインターフェース

Wyse ThinOS 7 から、新しいユーザーインターフェース「ZERO ラウンチパッド」が導入されます。「ZERO ラウンチパッド」では、新しい側面ツールバーの仕組みを利用し、よりエンドユーザーに分かり易い操作性を提供します。また、複数デスクトップ起動時に、自動出力される側面ツールバーにより、デスクトップ切り替えや切断などを直感的に行うことが可能となります。

■ Wyse ThinOS 6.5 との互換機能

Wyse ThinOS 7 には、ユーザーインターフェース「クラシックデスクトップ」モード(デフォルト)が搭載されています。各種設定項目は、より分かり易く、機能別カテゴリで分類されます。各設定項目は、Wyse ThinOS6.5 との互換性も保持しています。

■ 解像度の異なるモニター利用

デュアルモニター利用時、Wyse ThinOS 上で、異なる二つの解像度のモニターを認識することが可能となりました。これにより、RDP 7 (Windows 7 等)や Citrix ソリューションに

において、異なる解像度でのデュアルモニター機能を利用することが可能となります。

注意: Windows XP 等、ホスト側のリモートデスクトップサービスが、セッション内での異なる 2 画面解像度をサポートしていない場合、セッション内での異なる解像度の認識は実施されません。

■ 回転モニターのサポート

縦、横に回転することができるモニターが利用可能となります。Wyse ThinOS 上で、回転モニターを認識して、縦・横の表示を実施します。

注意: Experimental Support となります。Wyse 社では、回転モニターの機能を盛り込んでおりますが、限定的な機能のみを作りこんでおります。このため、モニターの機種によっては、フル機能のサポートができない可能性があります。ご利用するモニターは、運用前に十分なテストを実施ください。

■ WDM 管理用 Custom フィールド設定

WDM サーバーで端末を管理する場合の Custom フィールド設定が可能となりました。これにより、WDM サーバー利用時に、Custom フィールドで、端末の分類などが可能となります。

■ 高解像度(1920x1440、2560x1600)サポート

R Class シンクライアント(R10L)において、ローカルデスクトップ解像度として、1920x1440 と 2560x1600 がサポートされます。

注意: 日本国内での R10L 販売は、2011 年 2 月以降を予定しております。

■ Active Identity スマートカードのリセット/ロック解除

Active Identity スマートカードの PIN コードリセット/ロック解除が、Wyse ThinOS ローカルデスクトップ上から可能となります。

■ ネットワークキャプチャ機能

Wyse ThinOS ローカル機能として、ネットワークキャプチャ機能が搭載されました。Wyse ThinOS ターミナルに挿入した USB ストレージ上に、ネットワークキャプチャデータを取得することが可能となります。

2. Citrix 機能

■ HDX USB プラグ&プレイ

Citrix HDX プラグ&プレイ機能をサポートします。Citrix 環境を利用する場合、Citrix HDX 機能により、多種・多様な USB 周辺機器を利用することが可能となります。

注意: HDX USB プラグ&プレイは、Wyse TCX USB Virtualizer と同等機能となります。Citrix 環境を利用している場合、TCX USB Virtualizer の利用をしなくとも、USB デバイスのリダイレクション機能が利用可能となります。

■ HDX Real Time 機能強化

HDX Real Time 機能において、WAN 環境における音声通信等の機能を強化しました。ICA セッションで利用する音声品質を、High, Mid, Low の三種類に設定することが可能となりました。

■ HDX Flash (サーバーレンダリング)

HDX Flash アクセラレーション機能をサポートします。Citrix 画面転送方式を利用している際に、Flash 動画などの再生をより高速・スムーズに実行することが可能となります。

注意: Flash リダイレクト機能はサポートしておりません。Flash リダイレクト機能は、Windows クライアント上の Flash Player が必要となるため、Wyse ThinOS 上では適用されません。

■ ICA Ping Tool 機能

ICA セッション内の、ICA Ping 機能をサポートします。Citrix Edge Sight などの機能で、クライアント-サーバー間の ICA セッションラウンドトリップ時間などを測定することが可能となります。

■ 2 要素認証のサポート

Citrix Access Gateway/Netscaler(Secure Gateway)を利用した Citrix サーバー環境へのアクセスに対して、RSA Secure ID を利用した接続をサポートします。

■ Account self service 機能

Citrix Account Self-Service 機能を利用して、Wyse ThinOS ローカルデスクトップから、ドメインユーザーのパスワードリセット/変更を実施することが可能となります。

■ HDX Realtime Webcam サポート

Wyse ThinOS ローカルに挿入された Web カメラをローカルで認識(対応デバイスに関しては、下記周辺機器テスト状況を参照)し、動画情報を圧縮しサーバーに送信します。これにより、大幅に動画アップロード情報が削減できます。本機能を利用するためには、下記の点に注意が必要となります。

本機能利用時の注意点

- XenDesktop 5、もしくは、XenApp 6 の Realtime Webcam 機能が必要

- USB リダイレクト機能(HDX USB 等)を OFF に設定
- 推奨画素数 320x240/10FPS (CPU リソースを利用するため、R10L などの高 CPU が望ましい)
- Wyse 社でテスト済みデバイス: Logitech 9000 fusion, Logitech 9000 Pro, Logitech 310

注意: Web カメラの利用は、システム環境(動画情報、利用アプリケーション等)とホスト/クライアントリソース(CPU、RAM、ネットワーク等)に依存します。本機能導入前には、事前の十分なパフォーマンステストを実施ください。

3. RDP7 機能

注意: RDP7 機能を利用する場合、原則的にホストシステムが RDP7 機能に対応している必要があります。

■ マルチメディアリダイレクト

RDP7 で導入されたマルチメディアリダイレクト機能をサポートします。マルチメディアリダイレクト機能をサポートしている Windows 7、Windows Server 2008 R2 へのホストアクセスに対しては、RDP7 内でのマルチメディアリダイレクト機能が利用可能となります。

■ 双方向音声通信

RDP7 の双方向音声通信機能をサポートします。従来の RDP 機能では、音声再生機能のみでしたが、本バージョンではクライアント端末からホストシステムに対して、音声のアップロード(RDP セッション経由での音声の録音等)が可能となります。

■ ネットワークレベル認証(NLA)

Wyse ThinOS 7 上の RDP クライアントには、ネットワークレベル認証(NLA)機能が搭載されています。これにより、Microsoft Network Loadbalance 機能等を利用した、リモートデスクトップシステムのセッションローミング時に、ユーザー名・パスワードを再度入力することなく、シームレスにユーザーセッションをローミングすることが可能となります。

■ Kerberos 認証

WTOS からの Kerberos 認証による、ローカル AD 認証が可能となりました。Kerberos 認証による AD 認証が可能となります(旧バージョン 6.5 以前では、NTLM プロトコルでの認証を実行)。RDP 接続での、Kerberos 認証利用には、下記の条件を満たしている必要があります。

- ドメイン認証によるユーザーログイン
- RDP ホスト OS への接続設定は、FQDN 指定(IP アドレスは不可)

- タイムサーバー指定による Wyse ThinOS 端末の時刻同期

注意: Kerberos 認証には、RDP ホスト OS が対応している必要があります (Windows Vista SP2 以降、Windows 7、Windows Server 2008/2008R2 など)。

■ RDP オーディオの向上

RDP7 ベースの音声通信機能を搭載することで、RDP 音声再生品質が向上されました。

■ RDP ビットマップ圧縮機能

本機能を利用することにより、ホスト OS 側は、RDP ビットマップ描画のプライマリ/セカンダリ情報の送信を停止します。代わりに、ホスト OS 側からは、NSCODEC エンコードビットマップデータのグラフィック情報が送信されます。これにより、ビットマップ情報の送信方法が大きく変わります。本機能を利用するには、下記要件を満たしている必要があります。

- RDP 接続設定では、“True Colors”(32bit 色)が必須
- ホスト OS は、Windows 7

機能変更点

1. Wyse ThinOS ローカルデスクトップにログオンを実施しなくとも、管理モード機能 (AdminMode)へのアクセスが、可能となりました。
2. コネクションブローカー(Citrix DDC, VMWare View 等)ログオン時、デスクトップへのセッションをデフォルトで自動起動します。Wyse ThinOS 6.5 では、明示的に自動起動設定を実施する必要がありました。
3. Citrix 環境において、音声品質(High, Medium, Low)の選択が可能となりました。
4. ダイアルアップ接続、PPPoE 接続機能は廃止予定です。本機能は、現在ある機能のみが利用可能となります。既存機能への追加対応は実施されません。
5. 「ZERO ラウンチパッド」におけるホットキーは、クラシックモードと異なり、[CTRL]+[ALT]+[UP] キーにより、ツールバーの表示を行います。
6. ICA 接続機能として、TCX USB Virtualizer/HDX USB Plug & Play の選択が可能となります。
7. RDP 接続機能として、ネットワークレベル認証(NLA)の有効/無効の選択が可能となります。

8. ICA 接続機能として、フォントスムージング機能の有効/無効の選択が可能となります。
9. CTL+ALT+DEL キーにより、ローカルデバイスのシャットダウンメニューを表示します。
(SignOn=yes の場合有効)
10. 規定のログオンアカウント情報の設定により、端末のデフォルトログオンアカウントが設定可能となります。
11. ゼロツールバーの表示が、仮想デスクトップ 1 セッションの場合は、表示されません。
12. デュアルディスプレイ利用時の「表示モード」、「位置」情報が追加されました。
13. ローカルカメラの「プレビュー」機能が追加されました。
14. 画面のガンマ調整が追加されました。
15. マウススピードの微調整が可能となりました。

新規に追加/変更された設定 INI ファイルパラメータ

本リリースにおける追加/変更された設定 INI ファイルパラメータに関して、下記表に示します。

表. WTOS 7.0 Build 113 で追加/変更された INI ファイル設定パラメータ

パラメータ	説明
Password=パスワード [encrypt={yes, no}]	Password パラメータに暗号化されたパスワードを利用することが可能です。 Encrypt: yes: パスワードに暗号化されたパスワードを設定します。 例: Password=NCAONIBINMANMLCOLKCNLL ¥ encrypt=yes no (デフォルト): パスワードにクリアテキストを設定します。 例: Password=wyseatc@123 補足: パスワードの暗号化ツールが必要な場合、別途販売代理店にお問い合わせください。

<p>Dualhead={yes, no}</p> <p>[ManualOverride={yes, no}]</p> <p>[Mainscreen={1, 2}]</p> <p>[Orientation={hort, vert}]</p> <p>[Taskbar={wholescreen, mainscreen}]</p>	<p>ManualOverride の設定により、wnos.ini ファイルで反映されたデュアルモニター設定をローカルユーザーがデュアルモニター設定をマニュアルで変更することが可能となります。デュアルモニターとシングルモニター環境が混在している場合、個別の設定が可能となります。</p> <p>注意: 工場出荷モードで再起動した場合、再度 wnos.ini ファイル上の設定が反映されます。</p> <p>ManualOverride: Yes: ローカルユーザーがマニュアルで設定を変更できます。 No(デフォルト): マニュアルでの設定変更はできません。 設定例: Dualhead=yes ManualOverride=yes Mainscreen=1 ¥ Orientation=hort Taskbar=mainscreen</p>
<p>Device=Ethernet [<i>Speed=speed</i>]</p> <p>[MTU=mtu] [KeepAlive={5-600}]</p> <p>[Warning={yes, no}]</p>	<p>KeepAlive: TCP の KeepAlive 設定を実施します。5~600(秒)の範囲で設定します。</p> <p>Warning: TCP コネクションがアイドル状態に入り、KeepAlive タイマー値に到達した際に、Warning=yes と設定することで、システムログに KeepAlive のログが表示されます。</p> <p>Yes: KeepAlive のログを表示する。 No(デフォルト): KeepAlive のログを表示しない。 設定例: device=ethernet keepalive=20 warning=yes</p>
<p>[Screen={1, 2}]Resolution={DDC, 640x480, 800x600, 1024x768, 1280x1024, 1600x1200}</p> <p>[Refresh={60, 75, 85}]</p> <p>[rotate={left,none,right}]</p>	<p>Screen: デュアルモニター設定の際、モニター1と2の設定を個別に実施することができます。</p> <p>Rotate: 回転機能をもつモニターに対して、画面の回転角度を設定することができます。 Left: 左へ 90 度 None: 回転無し Right: 右へ 90 度</p> <p>設定例: screen=1 resolution=1280x1024 refresh=60 rotate=none</p>
<p>SessionConfig=RDP</p> <p>[MaxBmpCache={128 - 1024}]</p> <p>[DefaultColor={0,1,2}]</p> <p>[EnableNLA={no,yes}]</p>	<p>EnableNLA: RDP セッション全般のネットワークレベル認証(NLA)の設定を行います。 Yes (デフォルト): NLA を有効にします。 No: NLA を無効にします。</p> <p>設定例: SessionConfig=RDP MaxBmpCache=1024 ¥ DefaultColor=1 EnableNLA=no</p>

<p>MaxVNCD={0-1}</p>	<p>MaxVNCD: VNC のセッションシャドール数を設定します。 1 (デフォルト): 端末に対するシャドールを有効にします。 0: 端末に対するシャドールを無効にします。</p>
<p>SessionConfig=ICA [desktopmode={fullscreen, window}] [mapdisksunderz={yes, no}] [DiskMapTo=a sequence of characters] [OutBufCount=count] [SysMenu={remote local}] [SessionReliability={yes,no}] [ondesktop={yes,no}] [ProgressiveDisplay]={yes,no}] [BranchRepeater = {yes,no}] [DisableIcaPing={no,yes}] [AudioQuality={default,high,medium ,low}]</p>	<p>AudioQuality: ICA セッションにおける音声品質を設定することができます。 High: 高品質 Medium: 音声通話等に最適 Low: 低速回線に最適</p> <p>設定例: SessionConfig=ICA AudioQuality=high</p>
<p>AudioQualityMode={0-3}</p>	<p>ICA ONLY (Connect=ICA) の設定</p> <p>AudioQualityMode: ICA セッションの音声通信品質を設定します。 0: Default 1: High 2: Mid 3: Low</p>
<p>Privilege=[None, Low, High] ¥ SuppressTaskBar={yes, no, auto}</p>	<p>WTOS ローカルタスクバーを隠す機能</p> <p>Yes の場合、タスクバーを常に隠します。No の場合、タスクバーを常に表示します。Auto の場合、タスクバーのエリアからカーソルを離れた場合、タスクバーが自動的に隠れます。</p>
<p>PnLiteServer=List of {IP address or URL} [CAGRSAAuthMethod=RSASecurid]</p>	<p>CAGRSAAuthMethod: Citrix Secure Gateway/Netscaler 経由の接続において、RSA SecureID と Windows ドメイン認証による 2 要素認証接続を提供します。</p> <p>設定例: pnliteserver = https://cag2.qaxen.com ¥ CAGRSAAuthMethod = RSASecurid</p>
<p>CONNECT=[ICA, RDP] [NO_FontSmoothing={yes, no}]</p>	<p>ICA ONLY (Connect=ICA)</p> <p>No_FontSmoothing: ICA フォントスムージング機能の設定を有効・無効に設定できます。 Yes: フォントスムージング機能を無効にします。 No(デフォルト): フォントスムージング機能を有効にします。</p>

<p>SysMode={classic, vdi}</p> <p>[toolbardisablemouse={yes, <i>no</i>}]</p> <p>[toobarclick={yes, <i>no</i>}]</p> <p>[toolbardelay={0-4}]</p> <p>[toolbar_no_conmgr={yes, <i>no</i>}]</p> <p>[toolbardisablehotkey={yes, <i>no</i>}]</p> <p>[EnableLogonMainMenu={yes, <i>no</i>}]</p>	<p>SysMode: Wyse ThinOS のローカルデスクトップの表示設定(クラシックデスクトップモード、ZERO ラウンチパッドモード)を行ないます。本設定値は、クライアント端末の再起動が必要となります。Wnos.ini ファイルが存在しており、SysMode パラメータが設定されていない場合、クラシックデスクトップモードが選択されます。Wnos.ini ファイル自体を配置していない場合、ZERO ラウンチパッドモードが選択されます。 Classic: クラシックデスクトップモード Vdi: ZERO ラウンチパッドモード</p> <p>各サブパラメータは、ZERO ラウンチパッド(SysMode=vdi)モードの際に利用することが可能となります。</p> <p>Toolbardisablemouse: 仮想デスクトップ利用時、画面の左端にマウスを移動すると、自動的にタスクバーが表示されるかどうかを設定します。 Yes: タスクバーを表示しません。 No(デフォルト): タスクバーを自動的に表示します。</p> <p>Toolbarclick: 仮想デスクトップ利用時、画面の左端にマウスを移動し、マウスをクリックするとタスクバーが表示されるかどうかを設定します。 Yes: タスクバーを表示します。 No(デフォルト): タスクバーを表示しません。</p> <p>Toolbardelay: 画面左端に自動的にツールバーを表示させる際の表示遅延時間の設定を行ないます。 0: 遅延無し、1: 0.5 秒の遅延、2: 1.0 秒の遅延、3: 1.5 秒の遅延、4: 2.0 秒の遅延</p> <p>Toolbar_no_conmgr: ホームアイコンの表示設定を行ないます。 Yes: ホームアイコンを非表示にします。 No(デフォルト): ホームアイコンを表示します。</p> <p>Toolbardisablehotkey: [CTRL]+[ALT]+[UP]キーを押下すると、画面左端のツールバーを表示することができます。本設定により、このホットキーを無効化することができます。 Yes: 本ホットキーを無効にする。 No(デフォルト): 本ホットキーを有効にする。</p> <p>EnableLogonMainMenu: Wyse ThinOS 上のローカルログオンダイアログにおける各種ボタン(sysinfo, admin, mode, shutdown)を非表示に設定することができます。 Yes(デフォルト): 各種ボタンを表示する。 No: 各種ボタンを非表示にする。</p>
--	--

<p>VDIBroker=vdi_broker_url [AutoConnectList={* host1;host2;host3...}]</p>	<p>コネクションブローカーへのログオン後、仮想デスクトップへの自動ログオンを実行することができます。ワイルドカード「*」を使用することで、アサインされている仮想デスクトップを全て自動的に起動することも可能です。</p>
<p>SessionConfig=ALL [unmapprinters={yes, no}] [unmapserials={yes, no}] [smartcards={yes, no}] [mapdisks={yes, no}] [disablesound={yes, no,2}] [unmapusb={yes, no}] [DisksReadOnly={yes, no}] [MouseQueueTimer={0-99}] [WyseVDA={yes, no}] [WyseVDA_ENABLE_MMR={yes, no}] [WyseVDA_ENABLE_USB={yes, no}] [OffScreen = {yes, no}] [UnmapClipboard={yes, no}]</p>	<p>SessionConfig=All Wyse ThinOS の接続設定共通のオプションを設定します。</p> <p>UnmapClipboard: Wyse ThinOS 上のクリップ使用を全てのセッションにおいて無効化することができます。 Yes: クリップボードを無効化します。 No(デフォルト): クリップボードを有効化します。</p>
<p>RDPAudioRecord={no, yes}</p>	<p>RDPAudioRecord: RDP セッション内において、音声の録音を実行するかどうかを設定します。(RDP7 機能をサポートするホスト OS が必要です) Yes: ローカルデバイスから録音 No(デフォルト): 録音しない</p>
<p>EnableLocal={yes, no} [HideDefault={yes, no}]</p>	<p>HideDefault: 本設定によって、Default ICA/Default RDP 接続設定を Wyse ThinOS 端末上に非表示にさせることができます。 Yes: Default ICA/RDP を表示 No(デフォルト): Default ICA/RDP を非表示</p>
<p>Device=vusb [ForceRedirect=DeviceID] [ForceLocal=DeviceID] [Type={TCX, HDX}]</p>	<p>ICA ONLY Type: Citrix 環境において、USB リダイレクト機能を利用する際、TCX もしくは、HDX 機能を選択することができます。 TCX: Wyse TCX USB Virtualizer 機能を利用します。 HDX: Citrix HDX USB Plug & Play 機能を利用します。</p> <p>設定例: Device=vusb Type=HDX</p>
<p>PasswordServer=password_server [connect={ica, rdp}] [encryption={Basic, 40, 56, 128, Login-128, None}] ...</p>	<p>ICA/RDP 接続環境に合わせて、パスワード変更用のサーバーを指定することができます。Connect パラメータでは、ICA/RDP の指定を実施することが可能です。指定がない場合、自動的に ICA が選択されます。</p> <p>設定例: PasswordServer=10.151.120.189 connect=rdp ¥ encryption=Basic</p>

<p>SessionConfig=ICA</p> <p>[desktopmode={fullscreen, window}]</p> <p>[mapdisksunderz={yes, no}]</p> <p>[DiskMapTo=a sequence of characters]</p> <p>[OutBufCount=count]</p> <p>[SysMenu={remote local}]</p> <p>[SessionReliability={yes,no}]</p> <p>[ProgressiveDisplay={yes,no}]</p> <p>[BranchRepeater = {yes,no}]</p> <p>[DisableIcaPing={no,yes}]</p> <p>[AudioQuality={default,high,medium,low}]</p>	<p>ProgressiveDisplay: Citrix プログレッシブ表示機能の設定を行います。 Yes: Citrix プログレッシブ表示機能を有効にします。 No(デフォルト): Citrix プログレッシブ表示機能を無効にします。</p> <p>DisableIcaPing: Citrix ICA Ping 機能の設定を行います。 Yes: Citrix ICA Ping 機能を無効にします。 No(デフォルト): Citrix ICA Ping 機能を有効にします。</p> <p>AudioQuality: ICA セッション内の音声品質設定を行います。 Default: デフォルト High: ハイクオリティオーディオ Mid: 会話に最適化 Low: 低速回線に最適化</p>
<p>RapportDisable={yes, no}</p> <p>[DHCPinform={yes, no}]</p> <p>[DNSLookup={yes, no}]</p>	<p>RapportDisable: WDM エージェント機能を無効に設定します。 No(デフォルト): WDM エージェント機能が有効 Yes: WDM エージェント機能が無効</p> <p>WDM サーバー検索動作に関して、下記の動作フローがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Standard もしくは、WDM Proxy DHCP サービスから DHCP オプションタグを受信します(ベンダークラス名: "RTIAgent")。 2. DNS サービスのロケーションを登録します(登録名: "_wdmserver._tcp")。 3. DNS ホスト名を検索します(検索名: "wdmserver") <p>DHCPinform: WDM エージェント有効時、上述の Step 1 の動作を決定します。 No(デフォルト): 実行しない Yes: 実行する</p> <p>DNSLookup: WDM エージェント有効時、上述の Step 2, 3 の動作を決定します。 No(デフォルト): 実行しない Yes: 実行する</p>

<p>PnLiteServer=List of {IP address, DNS names or URLs}</p> <p>[ReconnectAtLogon={0, 1, 2}]</p> <p>[ReconnectFromButton={0, 1, 2}]</p> <p>[AutoConnectList={* appname1;appname2;appname3...}]</p> <p>[timeout={=5...300}]</p> <p>[CAGRSAAuthMethod=RSASecurid]</p> <p>[RequestIconDataCount={0-65535}]</p>	<p>PnLiteServer: Citrix WebInterface/DDC の接続様 IP アドレス、TCP ポート番号 (オプション)、URL などを設定します。デフォルトは空欄となります。各エントリの入力形式は、「IP アドレス:ポート番号」となります。ポート番号は、オプションとなり、設定されていない場合、デフォルトで 80 番が選択されます。一度設定されると、Wyse ThinOS 端末のローカル NVRAM に保存されます。 注意: Multifarm=yes が指定されている場合、フェイルオーバーサーバーの設定には、セパレータとして“#”を記述します。異なるファームウェアのサーバーを別ける場合には、“/”もしくは、“;”を記述します。</p> <p>ReconnectAtLogon: ログオン時の再接続処理動作を設定します。 0(デフォルト): 再接続処理を無効 1: 切断セッションにのみ再接続を実行 2: アクティブ、切断セッションに再接続を実行</p> <p>ReconnectFromButton: 再接続ボタンによる再接続処理動作を設定します。 0(デフォルト): 再接続処理を無効 1: 切断セッションにのみ再接続を実行 2: アクティブ、切断セッションに再接続を実行</p> <p>AutoConnectList: Citrix WebInterface/DDC へログオンを実行した際に、自動的に起動するアプリケーション/デスクトップ名を指定することが可能です。“*”の指定により、ログオンユーザーに対する全てのアプリケーション/デスクトップを自動起動することも可能です。</p> <p>Timeout: Citrix WebInterface/DDC からの応答がない場合、ログオン処理のタイムアウト(秒)時間を設定することが可能です。</p> <p>CAGRSAAuthMethod: RSA セキュア ID 認証を利用する場合に利用するオプションです。本設定により、RSA セキュア ID のパスワードによるログオン認証が有効となります。 設定例: PnLiteServer=https://cag2.qaxen.com CAGRSAAuthMethod=RSASecurid</p> <p>RequestIconDataCount: 32 ビットアイコンの要求数を指定できます。指定した数のアイコンだけが Wyse ThinOS 側で取得可能です。デフォルト値は、10 です。 設定例: RequestIconDataCount=0 アイコン情報の取得一切行いません。 RequestIconDataCount=5 アイコン情報を 5 つ取得します。</p>
--	--

<p>PasswordServer=password_server</p> <p>[AccountSelfService={yes, no}]</p> <p>[connect={ica, rdp}]</p> <p>[encryption={Basic, 40, 56, 128, Login-128, None}] ...</p>	<p>PasswordServer: ICA もしくは、RDP 接続時、パスワード変更のためのサーバーを指定します。</p> <p>AccountSelfService: Citrix Account Self-Service 機能を利用して、パスワードの変更を実行するかどうかを設定します。本設定を Yes とした場合、PasswordServer に、Citrix Account Self-Service 用のサーバーを指定します。 Yes: Citrix Account Self-Service を利用します。 No(デフォルト): Citrix Account Self-Service を利用しません。</p>
<p>Device=audio</p> <p>[volume={high, middle, low} or {0-25}]</p> <p>[[mute={0, 1, 2, 3}]</p>	<p>Wyse ThinOS のローカルオーディオ出力の音声ボリュームを設定します。 "High"、"Middle"、"Low" のボリューム調整が可能です。また、0~25 のボリューム調整が可能です。</p> <p>Mute: 0: オーディオとシステムビープ音を有効 1: オーディオ無効、システムビープ音有効 2: オーディオとシステムビープ音を無効 3: オーディオ有効、システムビープ音無効</p>
<p>BootOrder={PXE, HardDisk, USB}</p>	<p>BootOrder: BIOS 上のブートオーダーを設定します。</p> <p>設定方法の注意事項: 1. 各ブートオーダーは、セパレーター";"もしくは、","を利用する必要があります。 2. 全てのオプションを指定する必要があります。 3. オプションを重複して指定することは出来ません。</p> <p>設定例: 正しい(下記の設定は有効設定です) BootOrder=PXE;HardDisk;USB BootORder=HardDisk;PXE;USB BootOrder=USB;PXE;HardDisk</p> <p>誤り(下記の設定は無効な設定です) BootOrder=PXE;HardDisk BootOrder=PXE;PXE;USB BootOrder=PXE;HardDisk;USB;PXE</p> <p>補足: HardDisk が先頭に指定されている場合、システム再起動後、BIOS から起動されます。 S10 端末に関しては、HardDisk を先頭に指定した場合、BIOS 内のブートオーダーは、(None, None, None)となりますが、これは問題ではありません。</p>

<p>SelectGroup={yes, no} description=group1 [groupname=name1] [description=group2 [groupname=name2] ...</p>	<p>SelectGroup: ユーザーが Wyse ThinOS ログオン時に、プルダウンメニューより、グループリストを選択することが可能となります。</p> <p>Description: ログオン画面のプルダウンメニューに表示されるグループ名を指定します。</p> <p>Groupname: グループで利用する FTP ディレクトリ、ファイル名を指定します。Group 名を指定しない場合、Description で指定した記述が Groupname になります。</p> <p>設定例 SelectGroup=yes ¥ description="Dev team" groupname=dev ¥ description="Sus team" ¥ description="SQA team" groupname=sqa ¥ description="guest"</p> <p>グループ 1: Description="Dev team" groupname=dev 本グループは、下記の FTP ディレクトリ/設定 INI ファイルを取得します。 ¥wnos¥ini¥dev¥dev.ini</p> <p>グループ 2: Description="Sus team" 本グループは、下記の FTP ディレクトリ/設定 INI ファイルを取得します。 ¥wnos¥ini¥Sus team¥Sus team.ini needs to be created in the file server.</p> <p>上記の様に、各グループを設定します。各グループで利用する設定 INI ファイル(dev.ini、Sus team.ini など)には、グループ単位での接続ブローカー、ドメインリスト等の設定可能となります。</p> <p>設定 INI ファイルのロード順について: ユーザーがグループを選択すると、システムはグループに対応する設定 INI ファイルをロードします。そして、ユーザー設定 INI をロードします。ユーザー設定 INI ファイルの格納先ディレクトリは、下記となります。 ¥wnos¥ini¥{group_name}¥username.ini. もし、上記ユーザー設定 INI ファイルが存在しない場合、通常の下記ディレクトリ上にあるユーザー設定 INI ファイルをロードします。 ¥wnos¥ini¥username.ini</p> <p>注意: グループリストが異なるブローカーを指定するため、SelectServerList パラメータとの併用はできません。SelectGroup=yes を指定した場合、SelectServerList パラメータは無効になります。</p>
---	--

<p>[Screen={1,2}]</p> <p>Resolution={DDC, 640x480, 800x600, 1024x768, 1280x1024, 1600x1200}</p> <p>[Refresh={60, 75, 85}]</p> <p>[rotate={left,none,right}]</p> <p>[rgamma={1-100} ggamma={1-100} bgamma={1-100}]</p>	<p>ローカルディスプレイモニターの解像度、リフレッシュレート、スクリーン回転方向などを指定します。</p> <p>WNOS.INI ファイル内に設定されている場合、ユーザー設定 INI ファイル (Username.ini) 内に設定されている設定値は無効になります。</p> <p>Screen: デュアルディスプレイの場合、画面 1 と画面 2 の指定を行い、画面解像度の設定を行います (デフォルト:1)。</p> <p>Rotate: スクリーンの回転方向を指定します。 Left: 左へ 90 度 None(デフォルト): 無し Right: 右へ 90 度</p> <p>Rgamma, Ggamma, Bgamma: ガンマ値の設定を行います。それぞれ、「RED」、「GREEN」、「BLUE」の色設定を行うことが可能です。</p> <p>補足説明(制限事項): 現行バージョンでは、rgamma 等のガンマ設定は、screen=2 に対するパラメータ配下に記述する必要があります (シングルディスプレイの場合でも)。下記例を参照ください。 screen=1 resolution=1280x1024 refresh=60 rotate=none screen=2 rgamma=10 ggamma=10 bgamma=10</p>
<p>MicBoost={yes, no}</p>	<p>AC97 コーデックを使用しているプラットフォーム (V10L, S10) では、オンボードのマイクブースト機能がデフォルトで無効になっています。MicBoost=yes と設定することで、マイクブースト機能を有効にすることができます。</p>
<p>Inactive={0-480}</p> <p>[NoSessionTimer={0-480}]</p>	<p>Inactive: 非アクティブな状態 (端末のアイドル状態) を計測するタイマー値を設定し (分単位)、Wyse ThinOS ローカルや起動中のセッションをタイムアウト処理することができます。</p> <p>NoSessiontimer: Wyse ThinOS 上にアクティブなセッションがない場合のアイドルタイマー値を設定 (分単位) することができます。タイムアウト後、Wyse ThinOS のローカルデスクトップのログオフ処理を行います。</p>

<p>SessionConfig=ICA [desktopmode={fullscreen, window}] [mapdiskssunderz={yes, no}] [DiskMapTo=a sequence of characters] [SysMenu={remote local}] [SessionReliability={yes,no}] [ondesktop={yes,no, all, none, desktops, applications}] [ProgressiveDisplay]={yes,no}] [BranchRepeater={yes,no}] [DisableIcaPing]={no,yes}] [AudioQuality]={default,high,medium,low}]</p>	<p>SessionConfig: SessionConfig=ICA を設定することにより、ICA セッションのデフォルト設定を指定することができます。</p> <p>Desktopmode: PNAgent ログオン時の公開デスクトップ表示方法を選択します。 Fullscreen(デフォルト): フルスクリーンモード Window: 固定画面</p> <p>MapdiskssunderZ: MapdiskssunderZ=yes が指定されている場合、MapdiskssunderZ=yes が有効となります。</p> <p>DiskMapTo: 連続的な文字列の利用を指定します。”RTNM”と指定した場合、各アルファベットがマッピングされたディスクの順番に表示されます。”RTNM”と指定した場合、最初にマッピングされたディスクに、”R”がマッピングされます(WTOS 内部では、D:¥と認識されます)。次にマッピングされたディスクには、”T”がマッピングされます(WTOS 内部では、E:¥と認識されます)。マッピングする文字列は、アルファベット”a-y”もしくは、”A-Y”が利用可能です。ただし、全ての文字列は大文字として認識されます。その他の文字列を入れた場合、または文字列の重複などは、スキップされて利用されません。 例:”#GGefZzedAF1JaE”とした場合、マッピングに利用される文字列は、”GEFDAJ”となります。セッションに対してマッピングされるディスクの数は、指定する有効な文字列の数に依存します。文字列が指定されていない場合、全てデフォルトのドライブレターにマップされます。</p> <p>SysMenu: シームレスモード利用時、画面下のタスクバーを右クリックした際の動作を決定します。 Remote: リモートサーバーからのシステムメニュー Local(デフォルト): ローカルのシステムメニュー</p> <p>SessionReliability: Citrix ICA 機能のセッション画面の保持機能の有効/無効を設定します。</p> <p>Ondesktop: Wyse ThinOS のローカルデスクトップ上に公開アプリケーション/デスクトップのアイコン表示設定を行います。</p> <p>ProgressiveDisplay: Citrix HDX 機能であるディスプレイプログレッシブ機能を有効にする設定を行います。</p> <p>BranchRepeater: Citrix Branch Repeater との接続機能を有効にする設定を行います。</p> <p>DisableIcaPing: ICA Ping 機能を無効にする設定を行います。デフォルトは、No。</p> <p>AudioQuality: デフォルトの Audio クオリティを設定します。</p>
<p>PRIVILEGE=[None, Low, High] [EnablePrinterSettings={yes, no}]</p>	<p>EnablePrinterSettings=yes と Privilege=None と組み合わせて設定することで、Wyse ThinOS のローカルプリンタ設定のみを有効にすることができます。</p>

<p>MaxVNCD={0-1}</p> <p>[VNCD_8bits={yes,no}]</p> <p>[VNCD_Zlib={yes, no}]</p>	<p>MaxVNCD: VNC クライアントが接続できる数を設定します(デフォルト:1)。0に設定することで、VNC 機能を無効に設定できます。</p> <p>VNCD_8bits: Yes(デフォルト): VNC のセッションイメージが、8ビット/ピクセルに設定 No: VNC のセッションイメージをデフォルトの設定</p> <p>VNCD_Zlib: Yes: Zlib による圧縮によりデータの送信を実行 No(デフォルト): 圧縮無し</p>
<p>MouseNewSpeed={1-9}</p>	<p>MouseNewSpeed: マウススピードを1~9段階に設定できます。1が最も遅く、9が最も早い設定になります。デフォルトは、6です。</p>
<p>WarnUnlinkDisabled={yes,no}</p>	<p>WarnUnlinkDisabled: RDP/ICA セッションのためのネットワークリンクが無い場合にポップされる警告ダイアログの出力設定を行います。 Yes: 警告ダイアログの出力を停止 No(デフォルト): 警告ダイアログを出力</p>
<p>SignOn={yes,no, NTLM}</p> <p>[IconGroupStyle={default, folder}]</p>	<p>IconGroupStyle: Citrix 公開アプリケーション/デスクトップが、Citrix サーバー上でフォルダグループ別に表示される様に設定されている場合の Wyse ThinOS 上の公開アプリケーション/デスクトップアイコン表示方法を決定します。 Folder: デスクトップ上にフォルダを表示し、フォルダ階層の中にアイコンを表示します。 Default (デフォルト): デスクトップ上に直接アイコンを表示します。</p>
<p>IEEE8021X={yes, no}</p> <p>[peapgtcun={username for EAP-PEAP/EAP-GTC}]</p> <p>[peapgtcpwd={password for EAP-PEAP/EAP-GTC}]</p>	<p>PEAP-GTC のパスワードを設定することができます。</p>
<p>Locale={English French German ...} load={ yes no }</p> <p>LocaleList={English, French, German, ...}</p>	<p>(日本語イメージではサポートしていません。)</p> <p>Local: Wyse ThinOS のシステム言語を設定します。</p> <p>Load: システム言語ファイルをロードするかしないかを決定します。言語ファイルは、ロケール名を設定し、FTP サーバー(wnos¥locale)配下に配置します。 例: フランス語にシステム言語を設定したい場合、"msg.French"をFTPサーバー(wnos/locale)配下に配置します。設定 INI ファイル(wnos.ini)には、 Locale=French load=yes と設定します。</p> <p>LocaleList: ユーザーが、Wyse ThinOS のローカルデスクトップ上でシステム言語を選択できる様にします([システム情報]→[一般]タブ→[ロケール])。最大 16 個のロケールが設定可能です。システム言語ファイルは、msg.German の様に、FTP サーバー(wnos¥locale)に配置される必要があります。</p>

<p>Device=audio</p> <p>[volume={high, middle, low} or {0-25}]</p> <p>[mute={0, 1, 2, 3}]</p> <p>[mic_vol={high, middle, low} or {0-25}]</p> <p>[mic_mute={0, 1}]</p>	<p>Wyse ThinOS のローカルオーディオ出力の音声ボリュームを設定します。</p> <p>Volume: Wyse ThinOS のローカルオーディオ調整を行います。“High”、“Middle”、“Low”のボリューム調整が可能です。また、0~25 のボリューム調整が可能です。</p> <p>Mute: 0: オーディオとシステムビープ音を有効 1: オーディオ無効、システムビープ音有効 2: オーディオとシステムビープ音を無効 3: オーディオ有効、システムビープ音無効</p> <p>Mic_vol: Wyse ThinOS のマイクロフォンオーディオの調整を行います。“High”、“Middle”、“Low”のボリューム調整が可能です。また、0~25 のボリューム調整が可能です。</p> <p>Mic_mute: 0: マイクロフォンオーディオを有効にします。 1: マイクロフォンオーディオを無効にします。</p>
<p>Dualhead={yes, no}</p> <p>[ManualOverride={yes, no}]</p> <p>[Mainscreen={1, 2}]</p> <p>[Orientation={hort, vert}]</p> <p>[Align={Top Left, Center, Bottom Right}]</p> <p>[Taskbar={wholescreen, mainscreen}]</p>	<p>Dualhead: Vクラス、Cクラス、Rクラスで利用可能な、デュアルモニター設定を行います。</p> <p>ManulaOverride: Wyse ThinOS のローカル設定で、シングル/デュアルのモニター設定を上書き設定できます。シングル/デュアルモニターが混在する環境で有効です。</p> <p>Mainscreen: デュアルモニターのメインモニター(スクリーン)の選択を行います。</p> <p>Orientation: ディスプレイの表示スタイルを設定します。 Hort: 横 Vert: 縦</p> <p>Align: ディスプレイの表示位置(アラインメント)を決定します。 Top: 表示スタイル横(Hort)の際に、上へ合わせる Left: 表示スタイル縦(Vert)の際に、左へ合わせる Center: 表示スタイルを中央へ合わせる Botom: 表示スタイル横(Hort)の際に、下へ合わせる Right: 表示スタイル縦(Vert)の際に、右へ合わせる</p> <p>Taskbar: タスクバーの表示方法を決定します。 Wholescreen: 画面下のディスプレイ全体に渡り表示 Mainscreen: メインのディスプレイのみに表示</p> <p>設定例: Dualhead=yes ManualOverride=yes Mainscreen=1 Orientation=hort Align=bottom Taskbar=mainscreen</p>

Version 7.0.1 Build 13における修正内容:

本リリースにおける修正内容を下記に示します。

1. WebInterface 経由で、XenApp の公開アプリケーションを起動した際に、システムビープ音が鳴る場合があります。(CIR53387)
2. V10L 端末において、ICA パケットのカウン트가多くなる場合があります。(CIR51984)
3. iPhone/iPod のファームウェアが TCX USB リダイレクション利用時にアップデートできませんでした。(CIR52896)
4. 特定の携帯端末において、TCX USB リダイレクションにより、USB 認識することができませんでした。(CIR53203)
5. 特定のアプリケーションでネットワークプリンタ上から印刷処理を実行すると、Trap エラーが発生しました。(TIR53150)
6. Citrix WebInterface 経由で、公開アプリケーションを起動した際、アプリケーションが最前面に表示されない場合があります。(CIR53423)
7. VMWare View Connection Server 経由での接続の際、旧 TCX ライセンスの確認が行われていました。(TIR53636)
8. DHCP オプション 182 のドメインリストオプションがターミナル側に反映されない場合があります。(TIR53610)
9. WDM サーバーのセキュアコミュニケーションを利用した Device Discovery 機能が改善されました。(CIR51887)
10. デュアルモニター利用時に、Excel アプリケーション操作中、Trap エラーが発生する場合があります。(CIR52243)
11. 無線/有線を切り替えて利用する特殊な場合、WDM サーバー上に同じ端末が重複して登録されました。(CIR53690)
12. デスクトップセッション内での、Solaris 利用時に、Printscreen 機能が正常に動作しませんでした。(CIR52538)
13. FTP サーバーを空欄とした場合、EnableCacheIni パラメータが正常に動作しませんでした。(CIR52689)
14. Citrix Secure Gateway への接続に、“Unknown Certificate Authority”エラーで失敗する場合があります。(TIR53790)
15. XenDesktop へ接続を実施した際、Desktop パラメータで指定した壁紙設定が消える場合があります。(TIR54084)
16. ネットワーク接続が確立されていない場合、G キーリセットが動作しませんでした。(CIR53943)
17. スマートカード利用時、ユーザー名フィールドが出力され、ログオン処理が正常に実施できない場合があります。(CIR54014)

対応システム環境:

Wyse 社では、下記のシステム環境において、WTOS 7.0 Build 113 のテストを完了しております。

オペレーティングシステム

- Windows XP Professional SP3
- Windows Vista SP1
- Windows 7
- Windows Server 2003 SP2
- Windows Server 2008 SP1
- Windows Server 2008 R2

ホストシステム環境

- Citrix XenApp 5.0/6.0
- Citrix XenDesktop 4.0
- VMWare View 4.0.1/4.5
- Windows Server 2003/2008 ターミナルサービス/リモートデスクトップサービス
- その他リモートデスクトップ接続(RDP)を基盤とするシステム Windows XP/Vista, Windows 7

注意: お客様運用環境において、利用するアプリケーション、ネットワーク、ホストシステム等の組み合わせや、サポートされていない機能などにより、動作しない機能が存在する場合があります。Wyse ThinOS、ホストシステムを含めて、運用時に利用する各種機能においては、必ず運用環境を想定した十分な検証が必要となります。

画面解像度

各ハードウェア端末(クラス)は、下記表に示す画面解像度に対応しています。

表. 対応画面解像度

	C クラス	V クラス	R クラス	S クラス
640x840	✓	✓	✓	✓
800x600	✓	✓	✓	✓
852x480	✗	✗	✗	✓
1024x768	✓	✓	✓	✓
1152x864	✓	✓	✓	✗
1280x720	✓	✓	✓	✗
1280x768	✓	✓	✓	✗
1280x1024	✓	✓	✓	✓
1360x768	✓	✓	✓	✓
1366x768	✓	✓	✓	✓

1368x768	✓	✓	✓	✗
1400x1050	✓	✓	✓	✓
1440x900	✓	✓	✓	✓
1600x900	✓	✓	✓	✓
1600x1200	✓	✓	✓	✓
1680x1050	✓	✓	✓	✓
1920x1080	✓	✓	✓	✗
1920x1200	✓	✓	✓	✗
1920x1440	✗	✗	✓	✗
2560x1600	✗	✗	✓	✗

Wyse VDA サポートに関して

Wyse VDA (Virtual Desktop Accelerator)の利用 UDP ポート番号に関して、Windows 版 VDA クライアントとは動作が若干異なります。Windows 版 VDA クライアントでの VDA 利用時には、デフォルトで 4000 番ポートから順番にポート数が減ります(4000, 3999, 3998...)。Wyse ThinOS では、この逆でポート番号が増えます。下記設定の様にすると、VDA で利用する UDP ポート番号は、3000 から 3010 にインクリメント(増加)していきます。

設定例:

SessionConfig=All WyseVDA_portRange=3000,3010

ファームウェア(ビルド)の詳細:

ビルド(S10)の詳細

下記表に、それぞれファームウェアデータの情報、BIOS 詳細情報、ハードウェアスペックの情報を記載します。

表. S10 ファームウェアバイナリデータの詳細情報

Platform(s)	S10
Version	7.0
Build number	113
Build File Name	RCA_wnos.jp
Size(Bytes)	2,563,412
MD5 Checksum	E719404A3451844EC42908C4F192D84D
Localization	Japanese

表. BIOS 詳細情報

Platform(s)	S10
Version	1.16
Build File Name	Xpress.rom
Size(Bytes)	262,144
MD5 Check sum	31D2C9317FD76660841A1618D70E88A7
Checksum32	16C0FD3

表. 対応ハードウェアスペック (非 RoHS プラットフォーム)

System version	7.0.113
CPU	AMD Geode GX 466
ROM (NOR)サイズ	256KB
ROM (NAND) サイズ	32MB
RAM サイズ	64MB/128MB

表. 対応ハードウェアスペック (RoHS 版)

System version	7.0.113
CPU	AMD Geode GX 500
ROM (NOR)サイズ	2MB
ROM (NAND) サイズ	0MB
RAM サイズ	128MB

注意: 現在出荷の Wyse S10 は、全て RoHS 版となります。非 RoHS 版の製品は、2007 年 5 月 18 日に販売が終了しております。

ビルド(C10LE)の詳細

下記表に、それぞれファームウェアデータの情報、BIOS 詳細情報、ハードウェアスペックの情報を記載します。

表. C10LE ファームウェアバイナリデータの詳細情報

Platform(s)	C10LE
Version	7.0
Build number	113
Build File Name	C10_wnos.jp
Size(Bytes)	4,465,852
MD5 Checksum	13EE6CD6D5457BAB3DE4F261ACA5C23C
Localization	Japanese

表. BIOS 詳細情報

Platform(s)	C10LE
Version	1.0B
Build File Name	DEVEL35M.ROM
Size(Bytes)	1,048,576
MD5 Check sum	07BA2F7594898FACCB26EDEBBE5387CE
Checksum32	A4678A3

表. 対応ハードウェアスペック

System version	7.0.113
CPU	VIA 1GHz
ROM (NOR)サイズ	1MB
ROM (NAND) サイズ	128MB
RAM サイズ	512MB

ビルド(V10L, V10LE, V10L Dual Video)の詳細

下記表に、それぞれファームウェアデータの情報、BIOS 詳細情報、ハードウェアスペックの情報を記載します。

表. V10L ファームウェアバイナリデータの詳細情報

Platform(s)	V10L, V10L Dual DVI, V10LE
Version	7.0
Build number	113
Build File Name	VL10_wnos.jp
Size(Bytes)	4,404,936
MD5 Checksum	33706E80C51653F8A2CA3396387005B0
Localization	Japanese
備考	V10L、V10LDual DVI、V10LE プラットフォームに対応しています。

表. BIOS 詳細情報

Platform(s)	V10L, V10L Dual DVI, V10LE
Version	1.19
Build File Name	60480119.bin
Size(Bytes)	524,288
MD5 Check sum	542143D791505EC406F727221C425F10
Checksum32	4E42900

表. 対応ハードウェアスペック (V10L)

System version	7.0.113
CPU	VIA Eden/Esther 800MHz (V10L)
ROM (NOR)サイズ	512KB
ROM (NAND) サイズ	128MB
RAM サイズ	128/256MB/512MB

注意: 現在出荷の Wyse V10L は、全て RoHS 版 (Eden) となります。また、2008 年 10 月以降製造の V10L の RAM サイズは、256MB となります。2009 年 12 月移行製造の V10L の RAM サイズは、512MB となります。また、V10L は、販売を終了しています(2010 年 4 月)。

表. 対応ハードウェアスペック (V10L Dual DVI プラットフォーム)

System version	7.0.113
CPU	VIA Eden 800MHz
ROM (NOR)サイズ	512KB
ROM (NAND) サイズ	128MB
RAM サイズ	256MB

注意: Wyse V10L Dual DVI (DVI 端子を二つ標準搭載するモデル)は、販売を終了しています(2010 年 12 月)。

表. 対応ハードウェアスペック (V10LE プラットフォーム)

System version	7.0.113
CPU	VIA Eden 1.2GHz
ROM (NOR)サイズ	512KB
ROM (NAND) サイズ	128MB
RAM サイズ	512MB

ビルド(R10)の詳細

下表にファームウェアデータの情報、BIOS 詳細情報、ハードウェアスペックの情報を記載します。

表. R10 ファームウェアバイナリデータの詳細情報

Platform(s)	R10
Version	7.0
Build number	113
Build File Name	R10_wnos.jp
Size(Bytes)	4,482,656
MD5 Checksum	92DFB5A1F1A732B602A6B450A351A054
Localization	Japanese
備考	R10 プラットフォームに対応しています。

表. BIOS 詳細情報

Platform(s)	R10
Version	1.0H_SPC
Build File Name	FLASHABL.ROM
Size(Bytes)	1,070,066
MD5 Check sum	08154CED6D7799E2D1E6259CBAD71979
Checksum32	95309FC

表. 対応ハードウェアスペック

System version	7.0.113
CPU	AMD 1.5GHz
ROM (NOR)サイズ	1MB
ROM (NAND) サイズ	128MB
RAM サイズ	1GB

ファームウェアアップデートについて:

FTP アップデート

FTP サーバーからのアップデート用バイナリデータ。FTP サーバーを通して、Wyse シンクライアント 端末起動時に、ファームウェアイメージをアップロードするためのファイルです。

S10 用ファームウェアファイル:RCA_wnos.jp

C10LE 用ファームウェアファイル:C10_wnos.jp

V10L/V10L Dual DVI/V10LE 用ファームウェアファイル: VL10_wnos.jp

R10 用ファームウェア: R10_wnos.jp

WDM (Wyse Device Manager)

本ファームウェア(ビルド)は、下記の WDM 製品(バージョン)に対応しています。

Wyse Device Manager 4.7.0 Build 541 以降

WSI (Wyse Simple Imager)

本ファームウェア(ビルド)は、WSI 製品ではご利用いただけません。

周辺機器とその他ハードウェア対応:

Wyse 社検証済みハードウェア

下記に Wyse 社でテストされた周辺機器とハードウェアのリストを示します。

注意: 下記リストに表示されているハードウェアは、本バージョンのリリースに当たり、SQA プロセス上テストされたものとなります。この他一般的な周辺機器に関しては、下記サイトを参照ください。下記に示すハードウェアデバイスに関しては、Wyse 社でのテスト環境にける基本テスト結果を示しており、各ハードウェアの全ての機能を保証するものではありません。運用環境においては、利用するアプリケーション、ネットワーク、ホストシステム、各種設定等の理由により期待される効果が出ない場合があります。Wyse ThinOS で利用する周辺機器に関しては、必ず運用環境を想定した十分な検証を行う必要があります。システム/パフォーマンス要件に応じて、各種環境におけるシステム設定変更やワークアラウンドなどを適用ください。

Wyse Certified Peripherals

<http://www.wyse.com/products/hardware/peripherals/index.asp>

表. Wyse 社テスト結果

周辺機器	モデル (P/N)	テスト結果
USB メモリー		
SanDisk Cruzer Micro (1 GB)	SDCZ6-1024-A10	Pass
Kingston DataTraveler (2 GB)		Pass
Lenovo 4 GB		Pass
SanDisk Curzer Micro USB 2.0 Flash Drive 2G		Pass
SanDisk Curzer Micro USB 2.0 Flash Drive 1G		Pass
USB ハブ		
I ball USB hub	012982172	Pass
HD ドライブ		
Pioneer external DVD-ROM		Pass
YDstar external DVD-ROM		Pass
BENQ external DVD-ROM		Pass
Maxtor Basics External Portable Hard Drive 250G		Pass
USB ヘッドフォン		
Microsoft LifeChat LX-300 USB earphone		Pass
Logitech USB Handsets		Pass
Logitech USB Wireless Handsets	PN 881-000065	Pass
Logitech G330	PN 76810-01	

USB Webcam		
Logitech USB Webcam 9000		Pass
Microsoft LifeCam 3.0 Cinema	P/N X821404-001	Pass
Logitech C310	P/N 860-000259	
プリンタ		
HP Laser Jet P2035	CE461A	Pass
HP Laser Jet P2055D		Pass
Epson LQ_20K		Pass
HP LaserJet 6L		Pass
OKIPOS® 425D Series Dual-Roll Multi-Task		Pass
HP Color LaserJet CM1312MFP	CC430A	Pass
Xerox Phaser 6130 (Validated as Local printer)	HAT044231E/ 100S12604	Pass
無線 LAN デバイス		
Linksys WAP4410N	S/N-ASK08J501497	Pass
Wyse VT6656 USB 802.12 b/g Wireless LAN Network Adapter	920300-51L	Pass
モニター		
ELO intuitive (Touch Screen)	ET.F16WP.B02	Pass
SAMSUNG SyncMaster T220+		Pass
Philip 240PW9 (1920x1200)		Pass
ViewSonic VX2433wm (1920x1080)		Pass
ViewSonic VP2365WB		Pass
ViewSonic VP2030b		Pass
Acer V233Hbd (1920x1080)		Pass
MicroTouch 3M		Pass
Dell 1704FPT		Pass
Dell 2001FP		Pass
Dell 2007FPb		Pass
Dell 2408WFPb		Pass
Hanns.G Hi221D		Pass
DELL 3008 WFP		Pass
キーボード/マウス		
Wyse Keyboard PS/2	X05-29403	Pass

Wyse USB keyboard		Pass
Cherry keyboard		Pass
Logitech MK520 Wireless keyboard/mouse	820-000368	Pass
Logitech EX100 wireless keyboard/mouse	S/N-K7050050	Pass
Microsoft wireless keyboard/mouse 4000	G83-61051RNFR-2/05	Pass
Microsoft wireless keyboard/mouse 5000		Pass
Microsoft Business hardware pack, wired keyboard/mouse		Pass
BenQ BE800 wireless keyboard/mouse		Pass
Microsoft ARC keyboard + mouse		Pass
Microsoft Laser desktop 6000+mouse		Pass
Microsoft Wireless Optical Mouse 2000	X800598	Pass
カードリーダー		
ActivCard Smart Card Reader	ActivIdentity USB Reader	Pass
Omnkey Smart Card Reader	CardMan 3121	Pass
Cherry Smart Card Keyboard	RS 6700 USB	Pass
SCM Microsystems Smart Card Reader	SCR 335	Pass
Smart Card Reader	SCR 3310	Pass
Gemalto PC Twin USB Reader	HWP108765	Pass
SmartOn reader	ACS ACR122 注:SmartOn ID 利用時	Pass
スマートカード/トークン		
Etoken 72K		Pass
Etoken PRO 64K USB Key		Pass
Gemalto Cyberflex 64K Applet V1		Pass
Gemalto Cyberflex 64K Applet V2		
Gemalto.net card V2		Pass
Gemalto.net card V2+		Pass
SmartOn card	Felica Type	Pass

	注:SmartOn ID 利用時	
その他		
MCT USB-to-Serial converter U232-P9		Pass
MCT USB-to-Parallel converter 1284		Pass

既知問題/制限事項:

1. ローカルに特定の USB プリンタの抜き差しを連続的に行うとセッションがハングする場合があります(TIR55320)。
2. LPT プリンタをローカルに挿入し、一度抜き、再度挿入すると、テストページが印刷できなくなる場合があります(TIR55614)。
3. サマータイムの設定を有効無効に連続的に設定することができません(TIR54925)。
4. 2560x1600 の高い解像度で WMV のビデオを再生した場合、再生が遅くなります(TIR54959)。
5. R クラスでの Logitech Web カメラ利用時にちらつきや線が入ることがあります(TIR55085)。
6. HDX Realtime Webcam を利用する場合、高い解像度/FPS を設定してしまうと、ローカル CPU の利用率が著しく高くなります(TIR55140)。
7. 新しいパスワードで、新しくターミナルロックが効かない(TIR55144)。
8. XenDesktop/Windows 7 利用時で、Microsoft Lifecam の OCS ビデオ設定で HD ビデオを再生した場合、遅くなります(TIR55344)。
9. XenApp on Windows Server 2008 利用時に、OCS オーディオを利用すると音声品質が低下します(TIR55379)。
10. OCS のオーディオコールで、エコーが発生する場合があります(TIR55382)。
11. OCS でのビデオコールで、音声漏れが発生する場合があります(TIR55383)。
12. Windows 7/Vista XenDesktop 環境で、Skype 利用時にノイズが聞こえます(TIR55506)。
13. Windows 7 を利用した音声通話を他の仮想マシンと実施した場合、音声品質を Default か High に設定していると、ノイズがのることがあります(TIR55576)。
14. XenApp が"&"シンボルを名前に格納している場合、タイトルやステータスバーから"&"の表示が消えます(TIR55648)。
15. カメラのプレビューにおいて、タスクバーを隠しても、各種ボタンが有効となってしまいます(TIR55616)。
16. ユーザーがログオン時、VMWare エラーメッセージ表示が不適切な場合があります(TIR55494)。
17. Logitech 9000 を最初にプラグインして、プレビューの最初の再生画質が悪くなります(TIR55457)。

Appendix A: Wyse ThinOS 機能の補足説明

Wyse ThinOS で利用する主な機能に関する補足説明を行います。Wyse ThinOS の管理、設定の詳細については、「Administrators' Guide: Wyse ThinOS」をご参照ください。

概要:

1. USB ストレージ利用について
2. 設定 INI ファイル(WNOS.INI、User.INI 等)のコメント文内の日本語利用時の注意点
3. VMWare View 接続設定
4. Citrix XenApp/XenDekstop 接続設定
5. マルチメディアリダイレクション機能のコーデックに関して
6. Wyse ThinOS 上で認識される周辺機器と USB リダイレクション機能について
7. スマートカードの利用に関して

#####

1. USB ストレージの利用について

画面転送型シンクライアントシステムでは、大きく二種類の USB ストレージ利用方法があります。各利用方法により、システム上で利用する場合の注意が必要となります。

表. USB ストレージデバイスの認識方法

認識方法	USB 認識場所	リダイレクト方法	備考
ドライブマッピング	ローカル (Wyse ThinOS)	ICA/RDPドライブマッピング機能	USB ストレージは、Wyse ThinOS ローカルで認識されます。仮想デスクトップやターミナルサービスなどのホストシステム上では、ネットワークドライブの方式で認識されます。
USB リダイレクション	リモート (ホストシステム)	TCX/HDX*	USB ストレージは、直接ホストシステムの OS 上のローカル USB デバイスとして認識されます。Wyse ThinOS 上の USB ストレージ(デバイス)が、ホストシステム上の USB ポートにリダイレクトされて認識されます。

* TCX は、Wyse 社ソフトウェア製品「Wyse TCX Suite」を指します。TCX Suite 製品内の、TCX USB Virtualizer 機能により、USB リダイレクションが実現できます。HDX は、Citrix の HDX(ICA)プロトコル機能を指します。HDX USB Plug & Play の USB リダイレクション機能を指します。

ドライブマッピング機能を利用する場合の注意点

ドライブマッピングを利用する場合は、Wyse ThinOS ローカルで、USB ストレージを認識します。本機能を利用可能なフォーマット等に関して、下記にまとめます。

サポートフォーマット

- FAT16
- FAT32

注意: NTFS やその他形式でフォーマットされた USB ストレージはサポートされていません。これらサポートされていない形式でフォーマットされた USB ストレージを利用しても RDP/ICA セッション内でマッピングされません。

USB ドライブマッピング機能において、現在サポートされる製品は、SCSI/ATAPI コマンドセットと Bulk-Only Transport の転送プロトコルを用いた転送方式を有する USB ストレージ製品となります。

注意: 現在、SCSI/ATAPI コマンドセットと Bulk-Only Transport プロトコルは、USB ストレージで利用される一般的な転送の仕組みのため、通常意識することはありません。ご利用される USB ストレージ製品の仕様に関して、ご不明な点がある場合、製造元へお問い合わせください。

2. WNOS.INI ファイルのコメント文内の日本語利用時の注意点

Wyse Thin OS を管理するための設定ファイル wnos.ini ファイルには、文字列“#”の後に、コメントを記述することが可能です。これにより、各パラメータの内容や意味をコメント行で補足説明することが可能となります。

注意事項:

WNOS.INI ファイル内のコメント行の仕様として、マルチバイト文字列(日本語文字列)を利用する場合、コメント行の末尾に半角スペースを入れる必要があります。

WNOS.INI ファイル内で記載される情報は、WTOS 上で読み取られる際、通常の ASCII コードで処理されます。この際、特定の ASCII コードを含む場合、WTOS 側ではコメント行をパラメータとして読み取ろうとするため、正常に wnos.ini ファイル内のパラメータが動作しない場合が発生します。WNOS.INI ファイル内のマルチバイト文字列のコメント行を正常に WTOS に通知するためには、コメント行の末尾に半角スペースを入力する必要があります。

3. VMWare View 接続設定

WTOS を用いて、VMWare View Connection Server を利用した仮想デスクトップ環境を構築する場合、下記の三通りのいずれかの方法が可能です。

■ WTOS ローカル上の設定

[スタート]メニュー→[システム設定]→[ネットワーク]より、「ネットワーク設定」ダイアログを開きます。「サーバー」タブにある、「VDI ブローカー」のテキストボックスに、View Connection Server の HTTP/S の URL を登録し、WTOS を再起動します。

- **DHCP オプション機能の利用**

DHCP サーバー上の DHCP オプションタブ番号(コード)188 を作成し、データに View Connection Server の HTTP/S の URL を登録します。

- **WNOS.INI ファイルによる設定(ゼロコンフィグレーション)**

WTOS 管理サーバー上上で、WNOS.INI ファイルに下記のいずれかの設定を追記します (INI ファイル設定方法に関しては、スタートアップガイドを参照)。

- 1 台の View Connection Server からユーザーがログオンする方法

VDIBroker="https://VDMConnectionServer URL/"

- 複数の View ConnectionServer リストからユーザーが選択する方法

SelectServerList = VDI;リスト名-"https://VDMConnectionServer URL/"

注意: Connection Server で、1 ユーザーに 1 つの仮想デスクトップを設定している場合、WTOS からのログオン後、該当の仮想デスクトップが自動的に起動します。View Connection Server 上で 1 ユーザーに対して複数の仮想デスクトップが設定されている場合、デフォルトでは、WTOS ローカルデスクトップ上に複数の仮想デスクトップアイコンが表示され、自動的な仮想デスクトップへの接続は実施されません。1 ユーザーに対して複数の仮想デスクトップを設定し、特定の仮想デスクトップ接続をログオン後に自動起動したい場合、View Connection Server 上でデフォルトのデスクトップ設定を実行し、自動起動用の仮想デスクトップを設定します。

4. Citrix XenApp/XenDesktop 接続設定

Citrix XenDesktop, WebInterface/Desktop Delivery Controller を利用した仮想デスクトップ環境を構築する場合、下記の三通りのいずれかの方法が可能です。

- **WTOS ローカル上の設定**

[スタート]メニュー→[システム設定]→[ネットワーク]より、「ネットワーク設定」ダイアログを開きます。「サーバー」タブにある、「PNAgent Lite サーバー」のテキストボックスに、Citrix Web Interface/Desktop Delivery Controller)サーバーの HTTP/S の URL もしくは、IP アドレスを登録し、WTOS を再起動します。

- **DHCP オプション機能の利用**

DHCP サーバー上の DHCP オプションタブ番号(コード)181 を作成し、データに Web Interface (Citrix Desktop Delivery Controller)サーバーの HTTP/S の URL もしくは、IP アドレスを登録します。

- **WNOS.INI ファイルによる設定(ゼロコンフィグレーション)**

WTOS 管理サーバー上上で、WNOS.INI ファイルに下記のいずれかの設定を追記します (INI ファイル設定方法に関しては、スタートアップガイドを参照)。

1 台の Web Interface (DDC) からユーザーがログオンする方法

PNLiteServer= "*https://Web Interface (DDC) URL*" ¥

AutoConnectList=" *Virtual Desktop Machine Name*"

複数の Web Interface (DDC) リストからユーザーが選択する方法

SelectServerList = PNA; *リスト名- "https://WebInterface URL/"*

5. マルチメディアリダイレクション機能のコーデックに関して

Wyse ThinOS には、ローカルソフトウェアコーデックが格納されています。ICA/RDP セッションシステムを利用する場合、下記のそれぞれおのマルチメディアリダイレクション機能を利用したい場合があります。マルチメディアリダイレクションの仕組みは、クライアント端末上のローカルコーデックを利用して、ローカルでのマルチメディア再生を行うことで実現可能です。このため、下記コーデック以外のマルチメディアリダイレクションは利用できません。

各種マルチメディアリダイレクション機能

- TCX Suite (TCX Multimedia)
- Citrix HDX MediaStream (SpeedScreen Multimedia Acceleration 機能)
- RDP 7 Multimedia Redirection 機能

サポートされるコーデック

- MPEG1
- MPEG4 v2
- MPEG4 v3
- WMV
- WMA
- MP3

6. Wyse ThinOS 上で認識される周辺機器と USB リダイレクション機能について

Wyse ThinOS には、一般的に PC で利用される汎用的なドライバが格納されています。これにより、ローカルドライバをインストールすることなく各種デバイスをローカルで認識することが可能となります。本汎用ドライバは、Windows OS などの一般的な OS で利用される汎用ドライバを用いて、Wyse ThinOS 用に作り込まれています。

注意: 汎用ドライバは、Wyse ThinOS で開発されたものであり、Windows OS の汎用ドライバとの互換性を保証するものではありません。各種周辺機器を利用するためには、必ず事前の検証を実施してください。Wyse 社での基本テスト済みデバイスに関しては、ReadMe に記載してあります。

画面転送型シンククライアントシステムでは、プロトコル内(ICA/RDP)に、様々な方法で USB 周辺機器をホストシステム上で認識する機能が搭載されています。USB の各種認識方法により、システム導入時に、要件にあった USB 周辺機器の認識が行えるようにしてください。

表. Wyse ThinOS 搭載の汎用ドライバと動作について

ローカルドライバ	TCX/HDX 利用時*	備考
HID	ローカル (Wyse ThinOS)	キーボード、マウス、バーコードリーダー等の一般的なデバイスで利用されるドライバです。
Generic Audio Driver	ローカル (Wyse ThinOS)	スピーカー、ヘッドセット等のデバイスで利用されるドライバです。
Universal Video Driver	リモート (ホストシステム)	Web カメラ等のデバイスで利用されるドライバです。
USB Storage	リモート (ホストシステム)	USB メモリスティック、HDD などで利用されるドライバです。
CCID	ローカル (Wyse ThinOS)	スマートカードリーダーなどで利用されるドライバです。

* TCX/HDX の USB リダイレクト機能を利用した際、該当 USB ドライバ/機器がデフォルトで認識される場所を示します。「ローカル」は、TCX/HDX USB リダイレクト機能を有効にした場合でも、デフォルトで、Wyse ThinOS ローカル上で認識されることを意味します。「リモート」は、TCX/HDX USB リダイレクト機能を有効にした場合、ホストシステム上に USB がリダイレクトすることを意味します。

導入するシステム環境においては、特定の USB デバイスに対して、TCX/HDX の USB リダイレクト機能を強制的に利用したり、または利用したくない場合が存在します。これらの各 USB デバイスの動作に関しては、設定 INI ファイルの設定により、USB デバイスの認識方法を決定することができます。下記表は、設定 INI ファイルのパラメータ説明です。

表. USB リダイレクト機能に対する USB 動作設定

パラメータ	説明
Device=vusb [ForceRedirect=DeviceID] [ForceLocal=DeviceID]	<p>Device=vusb を設定することにより、USB リダイレクション機能で利用する USB 周辺機器の動作を決定します。</p> <p>ForceRedirect: 指定した USB デバイスは、USB リダイレクションを利用した仕組みでホストシステムに認識されます。</p> <p>ForceLocal: 指定したデバイスは、Wyse ThinOS のローカルデバイスとして認識されます。指定された USB デバイスは、TCX/HDX の USB リダイレクションによる仕組みではリダイレクトされません。</p> <p>設定例: Device=vusb ForceRedirect=0x04f2,0x0112,0x03,0x01,0x01</p> <p>ID の設定順は、下記となります。 <Vendor ID>, <Product ID>, <Class>, <SubClass>, <Protocol></p> <p>各種 ID 情報は、Wyse ThinOS のローカルイベント情報(システムログ)もしくは、Windows OS 内のデバイスマネージャなどで調査することが可能です。</p>

7. スマートカードの利用に関して

シンクライアントシステムで、スマートカードを利用する場合、スマートカードリーダーとスマートカード/トークンの二つの点に注意する必要があります。これら二つの要素がシステム上で利用できる必要があります。

スマートカードリーダー

Wyse ThinOS には、CCID ドライバが格納されています。このため、CCID 対応のスマートカードリーダーをローカルで認識することができます(検証済みデバイスは、ReadMe 参照)。

スマートカード/トークン

Wyse ThinOS では、ReadMe に記載されているスマートカード/トークンが検証済みです。シンクライアントシステムでは、スマートカードリーダーが認識された場合でも、スマートカード/トークン内のコマンド/データが正しくホストシステムと連携できる必要があります。また、コネクションブローカー(VMWare View Connection Server、Citrix WebInterface/DDC など)が、該当のスマートシステムに対応している必要があります。Wyse ThinOS は、クライアントローカルにスマートカード/トークンに関連するドライバやソフトをインストールすることはできません。

スマートカード利用時の注意点

CCID 対応のスマートカードリーダーと対応しているスマートカードを利用することにより、ICA/RDP でサポートされるスマートカードログオン認証の仕組みを利用することができます。ユーザーは、スマートカードと PIN コードの組み合わせで、各システムへログオンすることが可能となります。

CCID や対応できないスマートカード/トークンを、TCX/HDX などの USB リダイレクション機能により、システム上で使いたい場合があります。この場合、USB デバイス(スマートカードリーダー+スマートカード)は、ホストシステムログオン後に認識する仕組みとなります。このため、Windows システムへのログオン認証のデバイスとしては、スマートカードを利用することができません。ただし、ログオン後の各アプリケーション認証には、利用することが可能となります。

注意: TCX による USB デバイスの利用に関しては、TCX Suite の ReadMe を参照ください。

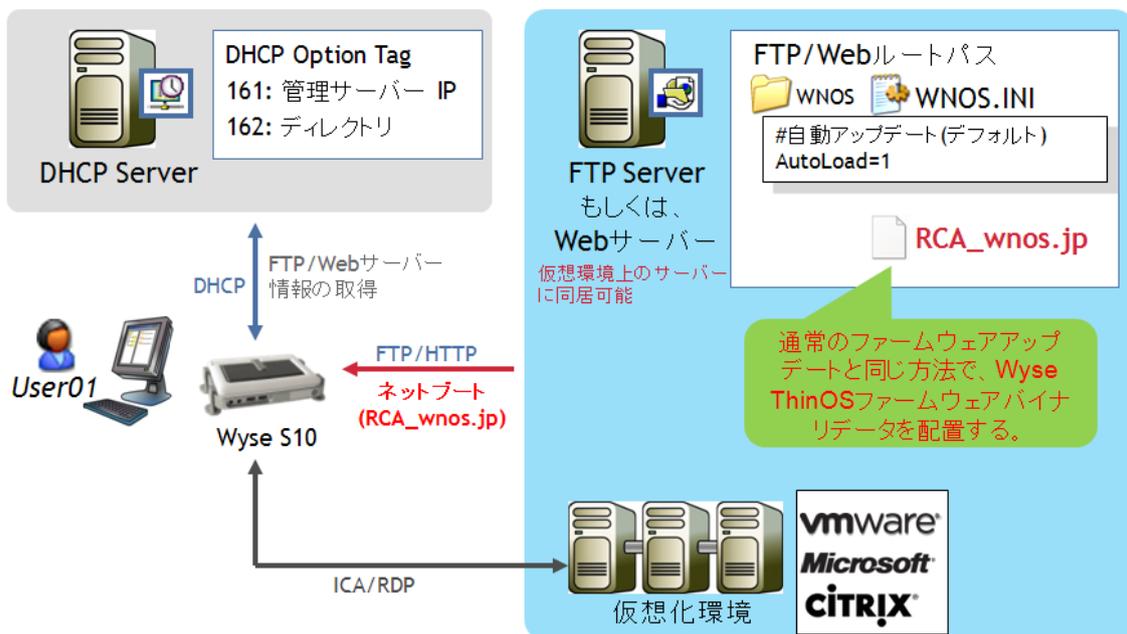
Appendix B: S10 におけるネットブートの説明

S10 シンクライアント端末上で、Wyse ThinOS バージョン 7.0 を利用する場合、システム環境において注意が必要となります。S10 シンクライアント端末*には、ローカルの Flash ROM が一切搭載されていないため、Wyse ThinOS バージョン 7.0 のバイナリデータをローカル ROM にインストール保存することができません。このため、S10 端末においては、設定 INI ファイルを配置する管理サーバー(FTP サーバー等)からのネットワークブートにより、Wyse ThinOS 7.0 を起動する必要があります。ファームウェアの配置方法等は、通常のファームウェアアップデート方法と同じとなるため、下記「Wyse ThinOS スタートアップガイド」の P.19「3. WTOS ファームウェアのアップデート」をご参考ください。

注意: 2007 年 5 月以前製造の旧 S10 端末は、ローカル Flash ROM を搭載しているため今まで通りアップグレードが可能です。

「Wyse ThinOS スタートアップガイド」

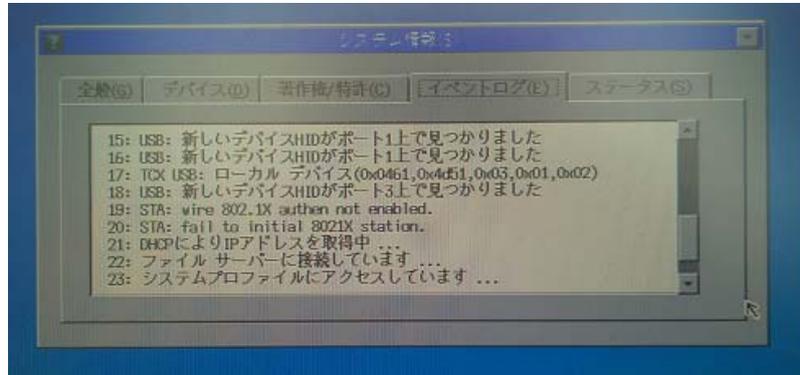
<http://www.wyse.co.jp/products/software/os/index.asp>



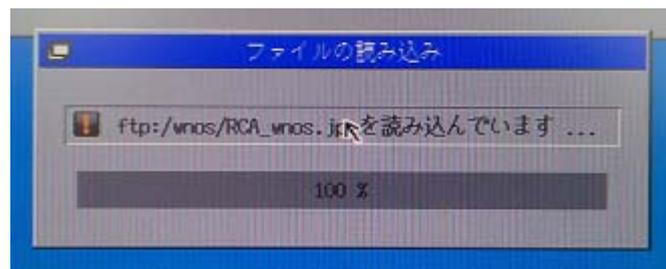
ネットブート時の構成

S10 端末ネットワークブート起動時のシーケンス

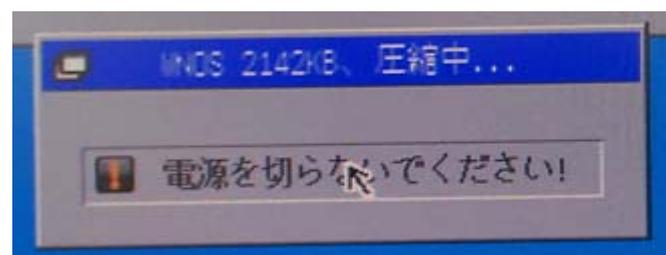
1. S10 端末を起動(デフォルト状態)中、システム情報ダイアログが出力されます。



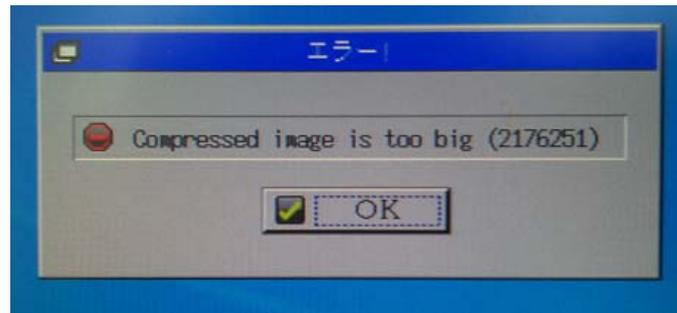
2. FTP サーバーの指定のディレクトリに、最新の RCA_wnos.jp ファイルが存在し、アップグレードの適切な設定が実施されていた場合、ファームウェアのデータ読み込みを実施します。



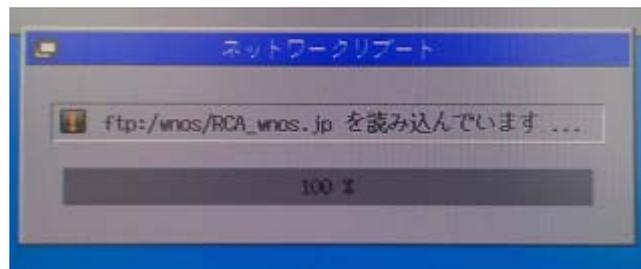
3. ローカル Wyse ThinOS 上でバイナリデータの確認を行います(下記ダイアログ)。



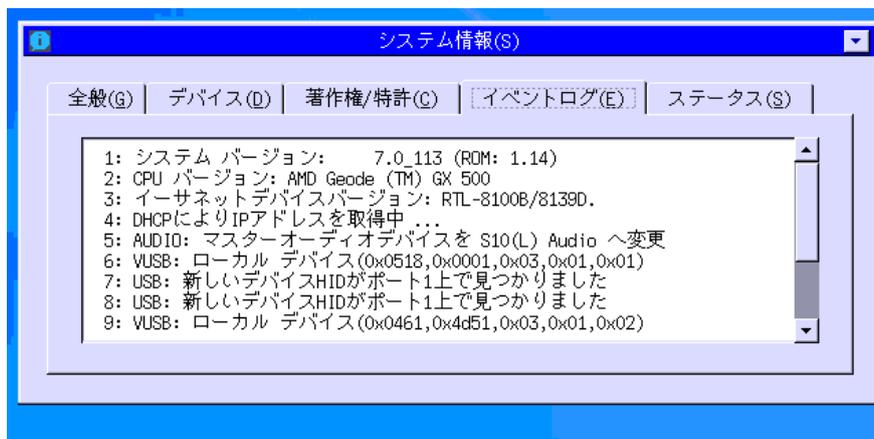
4. ローカル画面に、下記ダイアログが出力されるため、[OK]ボタンをクリックします。



5. ネットワークブートが開始されます。



6. Wyse ThinOS が再度起動し、バージョン 7.0.xxx で起動します。



補足:

ネットワークブートには、FTP サーバーからのファームウェアデータの転送(約 2MB)が、端末起動時に発生します。

EOF